学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	理念・目的・育成人材像については、様々な場面やツールを用いて周知徹底が図られている。周知対象は、学生、教職員、講師、保護者、入学検討者、高等学校関係者、業界等多岐に渡る。理念、目的等が一貫して伝えられていくことが、理念の実現や目的に達するためには必要不可欠であると考えている。また、業界ニーズの変化をいち早く吸い上げ、それに応えるカリキュラムの構築も行なえている。	養成目的：卒業後およそ3年（または業界から求められる人材像）の姿 教育目標：卒業時の到達像	3.0	
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	法人として、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。 その意識で毎年、事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じ、力を入れている。それは、各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・部署別会議等）で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。	3.0	・授業のお手伝いをさせていただいた時、授業時間が少なくなってできる事が少なくなったとお聞きしました。実習受け入れ先として「〇〇をさせてほしい」など、情報共有させていただければ、実習先としてフォローさせていただきたいと思いました。 ・学校運営に関する全ての人に周知・徹底・共感してもらうことに力点を置いていることは素晴らしいです。 ・先生方の授業への取り組み方等の向上、努力は素晴らしいと思いました。それだけに外部講師との授業との差が拡がってしまう事が気になってしまう。キャリア教育への取り組みは今後ももっと重要になっていくかと思うので、もっと実施していただきたいと思います。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	学校として、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、学校として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。 運営のチェックはそれぞれの現場の責任者から構成される運営会議により、月２回実施している。		
	2-4-1 設置法人は学校運営のための組織を整備し、組織運営を適切に行っているか	3	意思決定に関しては、決定事項の優先順位付けと意思決定を行う機関が明確であることが重要である。また、毎年短期的、中長期的視点に立っての事業計画の策定を行っていることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	事業計画上で定めた方針を基に定量・定性的な目標を明確にし、学校全体や各セクションにおける会議にて、毎月末をベースに実績数字や計画の進捗状況から問題発見解決のサイクルが常に実行される体制を整えている。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。　採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準を設けて、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。 そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。 また、2022年度から3年間の移行措置を経て給与制度改定を実施した。	数値目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務（例：プロジェクト活動など）も過程を評価できるよう「個人定性評価」を導入している。 目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。 また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システムは確立されている。各会議は、位置づけや主催、日程が事業計画において明文化している。会議において重要なことは、学校運営が滞りなく行われるよう、運営上生じる様々な問題を早期に発見⇒対策⇒実行という決定を速やかに行うことである。また、会議は教職員の研修の場でもあると考えている。問題を早期に発見した後の数字分析、仮説、立案、実行、検証の思考サイクルは、様々な業務の場面で役に立てられている。	会議は 1．法人理事会・評議員会（最高決議機関） 2．EAST戦略会議（運営方針の起案会議） 3．分野戦略会議（運営グループ単位での中長期戦略構築や運営課題の解決会議） 4．学校運営会議（学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議） 5．学校全体会議（決定事項の周知） 6．学校学科会議・部署会議（部署の問題解決会議） 7．グループ各委員会会議（広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会） の他、様々なプロジェクトの会議がある。		
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化が推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、グループ内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。	学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報に祖語がないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。		

学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため年2回の教育課程編成委員会の開催等を実施し、教育目標を定め学生便覧に明文化している。 また、学科ごとの3つのP（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を設定し、教育のあるべき姿を明確に想像し、どのような学生を、どのように育て、どのような職業人へと導くのかを明確にしている。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目標の見直しやカリキュラムの再構築は年度ごとに見直し、定期的に会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。	3.0	・授業アンケートの結果から学生の視点、講師の視点、両方からのものを重視していることは重要だと思います。資格合格100%は常に高い目標に向かってチャレンジの連続だと思います。 ・キャリア設計段階で良い歯健ロフェスティバル等で何時も参加、お手伝いしてもらい助かってます。学校では学べない自分達のブースで一般の方々と接して、歯科に関連している話しとかゲーム等での事は大変良いと思います。8020運動表彰式も手伝ってもらいうれしく思います。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	学科の各科目は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野によって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができている。そして現在実施している様々なプログラムを、キャリア教育の視点を持ち体系的に組み直すことで、より効果的なキャリア教育を提供することができる。今年度、放課後を利用したフリーセレクトプログラムを実施した。また、授業アンケートを通して、授業評価を実施しているが、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。 授業アンケートによって明らかになった授業改善点については、講師面談を通じて、フィードバックを行っている。	＊フリーセレクトプログラムは業界セミナー、個別学習サポート、学習動画サポートの3つで構成されている。 授業アンケートの内容は下記の4区分16問に自由意見を加えた形式としている。 区分1）授業内容　5問 区分2）授業手法と教員の行動　5問 区分3）教育効果　3問 区分4）学生の行動　3問		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則によって明文化されており、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、教職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。	各科目について5段階評価を行う。 評価基準はA・B・C・Dを合格としE・Fを不合格とする。 ＊科目の試験が評価が不合格（59点以下）の対象者には評価をFとし再試験を行い、合格した場合は評価Dとする。 ＊科目の出席率が70%未満の対象者には評価をEとし再試験を行わない。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 資格取得の指導体制はあるか	2	資格取得のための指導体制としては、対在校生、対卒業生ともにシステムとして形になってきている。特に、資格を有していないとその職に就くことができない歯科衛生士と視能訓練士に関しては、100%合格を目標に早期対策授業を実施し、授業前後に教員、卒業生による個別指導（チューター制）を行った。	滋慶学園グループのグループ力を活かし、学校、学科を超えて受験サポートを行う組織「国家試験対策センター」を設置している。このセンターは合格率の向上を目的とし、様々な活動（e-ラーニングの運用、過去問題分析、オリジナルテキストの作成、模擬試験の作成・実施など）を行なっている。万が一不合格で卒業する事になった学生に対しては、卒後対策として無料で対策授業の履修を可能としている。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の教育目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストである事と同時に講師要件を満たしている事を講師採用の基準に据えている。採用講師に対しては、初任者講師研修会を通して、授業運営上の留意点、成功事例、学校の理念、望む方向性、養成する人物像等を共有し、コンセンサスを図った上で授業に臨んでもらう。	講師との共有資料として、下記が挙げられる。 ①講師契約書　②学年暦　③時間割 ④教育指導要領　⑤科目シラバス　⑥国家試験出題基準		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

4 教育成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	開校以来、就職希望者の内定率は100%を維持できている。また取得した資格や学んだ知識、習得した技術を活かせる現場への就職（専門職就職）も、高い水準を維持することができている。 これらはキャリア・業界連携センターと学科教員が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携を図りながら活動をしている成果であると考えている。 実績　（※25年3月実績）: 就職希望者内定率　99.5%　（4月7日をもって100%） 専門職就職率　98.1% 求人獲得件数　1047件　2297名分	キャリア・業界連携センター…就職に関する情報提供及び相談機関を「キャリア・業界連携センター」という名称で設置している。設置の目的は以下のとおり。 ①囚学希望者には就職活動支援だけではなく、卒業後に対する具体的なイメージを持ってもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対して就職支援だけではなくキャリア全体の指導を行う。 ③キャリア・業界連携センター職員のほかに外部よりキャリアコンサルタントを配置して、学生個々のニーズに合った個別指導を実施する。 ④オンラインでの就職に関する案内などを配信し情報提供を実施する。	3.0	・様々な点から就職率の向上等に向けて取り組んでいると思います。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	2	各学科で資格取得の目標を達成するために、模擬試験、対策講座、補講を設け実施している。 年々、学力低下が課題となっているため1，2年次からの学力把握が不可欠となっている。 実績（新卒）（※25年3月実績）: 歯科衛生士学科Ⅰ部　96．7%　＊全国平均　94．3% 歯科衛生士学科Ⅱ部　95．8% 視能訓練士学科Ⅰ部　94．6%　＊全国平均　98．7% 視能訓練士学科夜間部　96．8%	国家資格に関しては、滋慶学園グループの組織として国家試験対策センターがあり、それぞれの資格取得のための支援や試験内容の分析・対策等を行っている。学園全体の豊富なデータを詳細に分析した結果を十分に活用して資格試験対策を計画、実施している。 1，2年次からの学力把握は学習能力チェック・基礎学力テスト・プレ模擬試験を行う		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生が活躍している結果として、求人票や実習先が多く獲得できている。今後は卒業生全員の活躍を学校として確実に把握し、更なるキャリア構築が必要な時期に専門スキル等の支援をしていく。また、在校生が卒業生を通して、業界や地域等で活躍できる場を広げていく産学協同の取組みがますます必要であると考えている。	卒業生への積極的な情報発信を行うことでより強い信頼関係を構築したい。同窓会・懇親会の他、早期の離職を防止する観点から、職能団体との情報交換も定期的に行っている。		
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	年間目標ならびに年間行動計画を立てて実施している。学科特性に合わせて全体指導に加えて、個別指導に力を入れている。また、時期にあわせた対応が重要であり、卒業前年度から、計画的にキャリア教育を導入している。就職活動への動き出しが遅い学科に対しては、課題を提示し就職希望先の選定と受験を行う仕組みを取り入れている。	業界の人事担当者をお招きしての企業説明会を実施している。また、求人に関わるキャリアコーディネーター（キャリア・業界連携センタースタッフ）と、自分の将来に関する相談ができるキャリアコンサルタントを外部より招聘し設置している。オンラインでの各種申請・報告ができる仕組みを整備しICTの活用を行っている。ホームページを通じて求人を募ることで外部に向けてもペーパーレスの働きかけを行っている。	2.9	・教職員のカウンセリング研修だけではなく、学生向けの研修会やロールプレイ、先輩・後輩の情報交換会などの企画も有効のように思います。 ・相談した事に対して親切丁寧に対応していただけていると思います。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	学校全体としては中途退学者率3.9%を目指しており、要因分析や時期ごとのシンドローム対策、低学力・学習力不足対策、実習不適応対策などに取り組んだが、退学率は昨年より増加した。2024年度は5.8%（前年度5.4%）であった。課題として取り組んだ学習面での退学者は減少したが、その他学外要因を主な理由とする退学者が増加した。	学生の心理面や学習意欲面など、様々な退学への要因になりうるデータを数値化した「キャリアサポートアンケート」を全学生に実施している。何よりも目的を持って入学を果たした学生からの信頼を獲得するためにも、入学者が必要な資格を取得し、全員卒業する学校づくりが求められる。様々な指標を用いて学生の状況を把握し、必要で具体的対策を適宜講じている。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	学校内の学生相談室において学校生活全般に関する相談いつでも受け入れる体制が整備され、しかも有効に機能していると考えている。ここでは専門のカウンセラーが対応にあたっている。 また、全教職員が「JESC認定教職員カウンセラー研修」を受講し、カウンセリングマインドを持ち学生相談に対応している。カウンセリングマインドを持っているからこそ、専門のカウンセラーへ適切なタイミングで繋ぐことができている。以上より、学生相談体制はかなり高いレベルで維持されていると考えている。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織（滋慶教育科学研究所）が主催する「JESC認定教職員カウンセラー研修」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の標準化を図っている。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2	入学前から入試事務局、学費担当者が一人ひとりの相談を受け、一人ひとりに合った経済的支援を一緒に考え、経済的負担により進学を断念することのないよう、支援している。「慶生会クリニック」は内科・歯科の2科があり、学生の身体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。提携不動産会社などと連携を図り、生活環境の改善に努めている。また、カウンセラーを学内、学外に配置し、悩みがある場合に速やかに相談ができる環境を整えている。	下記2点の独自の学費サポート制度を取り入れている。 ・奨学金予約採用分納プラン：日本学生支援機構貸与奨学金を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いを可能にするシステムである。 ・イシヤク学費分納プラン：無理なく学費納入ができるよう、学費分割での納入プランである。 精神面の健康管理については、「滋慶ﾄｰﾀﾙｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ」を中心に、本校には「学生相談室」を設置し、学生生活全般における不安や悩みの相談にのっている。		
	5-19-2 学生の健康管理を担う体制を整備しているか					
	5-19-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-19-4 学生寮の設置など生活環境への支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	出席状況その他で課題が見られた場合には、保護者と連絡を取り、状況の共有を図っている。必要に応じ、保護者と学生を交えた三者面談も行っている。新入生の保護者に対する保護者会を実施し、協力体制を構築している。また、学期毎に成績の発送を行って、定期的に学習進度の確認を行ってもらえるような体制を整えている。 歯科衛生士学科においては、1・3学年で保護者会を実施し、臨床実習、国家試験に向けて、ご家庭の協力が必要不可欠であることを伝えている。	適宜、保護者会、保護者面談を実施している。 また保護者参加の行事（歯科衛生士学科の登院式や視能訓練士学科の学習成果発表会）においても保護者会を開催している。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	卒業生のキャリア開発は母校の役割、責任として捉えている。業界から恒常的な信頼を得るためにも、卒業生の活躍は不可欠である。そのための一助となるよう、同窓会は単なる懇親会ではなく、技術講習会や卒業生講師制度、聴講生制度を整えている。また、卒業生は全員が同窓会会員となる。さらにリカレント教育を充実させることで卒業生が学校へ戻る仕組みを構築する。	卒業生ニーズに応える「再雇用求人紹介」など現場復帰のための機会提供を充実し、生涯働きながら学び続ける機会を増やしていくことが必要といえる。		
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	施設・設備・教育用具等を必要性に対応して整備できている。実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室は「現場を再現する」という視点で整備を行なっている。この実習室で授業を行なってから現場実習に臨むので、皆スムーズに実習をスタートさせる事ができている。 図書室や実習室などの学習支援施設をはじめ、手洗いなどの施設も充分に整っている。 実習室の機器等に関しては点検・整備などの対応も適切に行っており、事業計画によって改築・改修・更新計画をしっかりと立てている。	学内にある各実習室では、実践的に学ぶことができる環境を整えるため、現場で使用している機器をそろえている。	3.0	・学校での安全対策と同時に、家庭、特に一人暮らしの学生への細かい安全指導も必要だと思います。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習(歯科衛生士学科：247施設・視能訓練士学科：148施設）・インターンシップ・海外研修の実施は、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を高いレベルで具現化しており、実施体制を整備している。各学科の養成目的・教育目標に照らしてその教育効果は極めて高いと考えており、その体制もできあがっている。	2024年度においては各科で工夫をして学外での国際教育の実施に努めた。具体的にはJICA訪問・外資系医療機器メーカー訪問、学内で臨床での英会話講習を実施した。 　臨地実習においては各実習施設の協力のもと、コロナ禍以前とほぼ変わらない状況で実施することができた。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災組織を整備しかつ、適切に運用できている。毎年4月、教職員、学生への防災訓練を実施、地震や火災の際の避難経路を常に確認するなど、体制整備とチェックを重視している。現状、災害時の最低限の準備と教職員、学生への動機付けは図られている。 学内の安全管理体制を整備しかつ、適切に運用している。救急時における知識の習得と意識付けは、AEDや心肺蘇生法の講習会を通じて、十分に行われている。入り口を無人にしないようシフトを組んで受付に常駐、および午後から夜間にかけて専属の担当を置いている。また、危険物の管理に関しても同様である	・緊急地震速報システムを設置し、いざという時に備えている。 ・安否確認システムを構築し、万一の際の学生の安否確認の一助としている。 ・全学生数分のサバイバルキットを備えており、万が一の場合の３日間分の食料、水、防寒への対策を立てている。 ・スタッフ用ヘルメットの設置 ・防災マニュアルの整備 ・危機管理マニュアルの整備		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内の通り、適正に行われていると考えている。 高等学校向けの就職ガイダンス・説明会等に積極的に参加している。 また、社会人や地方の受験生に対してもより効率的に学校情報が収集できるよう各種SNSやライブ配信等を活用した発信にも積極的に取り組んでいる。	広報は、単なる学生募集ではなく、「入学前の教育」と位置づけており、体験授業や実技特待生講座などを通して職業理解を深め、個別面談で一人ひとりの「やる気」や「適性」を確認している。	3.0	・時代に合わせてるなと感じました。 ・オープンキャンパス100回以上は素晴らしいです。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考を行っている。 また、毎回の入学選考ごとに入学選考規定に基づく選考安定会議を実施し、合否判定を実施し、判定記録と共に管理している。 結果として、公平性が保たれていると考えている。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を高くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 入学辞退者の授業料については、辞退者からの申し出に応じて適切に対応している。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。□ また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の奨学金予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたってのアドバイスを実施している。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					

学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	右記にあるような厳しいチェックならびに評価を行っている。結果として債務超過や資金不足に陥ったりはしていない。よって、中長期的には財務基盤は安定し、学校運営も安定していると考えている。また5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができている。	以下のチェック機能がある。 事業計画（財務計画・収支予算書） 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成：学園本部によるチェックと理事会・評議委員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 計算書類、事業報告書の理事会・評議委員会による承認	3.0	・どこの私学も同じですが、新私立学校法への細かい対応が今年は重要だと思います。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	予算編成の方法については短期的と中長期的それぞれの視点に立って行っているので妥当な方法と考えている。 5年先を見越し、中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成になっているものと考える。	「「当初予算」→「四半期予算・実績対比」→「修正予算」→「決算」という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考える。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。 また、2024年度から電子帳簿保管法に基づく各種対象資料の保管の仕組みにも対応している。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	財務体制の整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後も、いかなる法改正にも迅速に対応していく事が出来る組織であると自負している。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、2010年度で完全に整備させた。 直近では2023年度には「歯科衛生士養成所に関する指導調査（東京都保健医療局）」を実施。適正校として引き続き承認をいただいている。	監事監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。また、適正な学校運営のため、適宜、学内研修を行っている。 【研修実績】 ・学校教育にかかわる文書保管電子帳簿保存法に関する基本情報(2024年2月） ・IT・DXリテラシー（2024年5月） ・合理的配慮、アカデミックハラスメントなどのハラスメントに関する研修(2024年12月）	3.0	
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報保護の体制は完了している。個人情報保護に関しての教職員への啓蒙として、毎年教職員全員が一般社団法人日本プライバシー認証機構（JPAC）の研修を受講しており、日々変化している個人情報等の情報を取り入れることで、より一層の整備強化を図っている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。また、教職員・学生全員がITリテラシー（通信・ネットワーク・セキュリティなど、ITにひも付く要素を理解し、自分の目的に合わせて活用できる能力）講習を毎年受講している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	学校評価においては、文部科学省が定める、自己点検評価、学校関係者評価のプロセスに基づき毎年実施しその結果をホームページに公開している。 また、これらの学校評価が必要条件とされている職業実践専門課程の要件にも準拠しており、2017年度（2018年3月）に歯科衛生士学科Ⅰ（午前部）・Ⅱ部（夜間部）が、2023年3月には視能訓練士学科Ⅰ部（午前部）が職業実践専門課程の認可を受けている。	私立専門学校等評価研究機構の内容に準拠し、自己点検・自己評価、学校関係者評価を計画的に実施している。		
	9-34-2 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公開しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ等で公開している。公開内容を定期的に精査・更新している。	【ホームページ(情報公開)リンク】 https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/		

学校法人　東京滋慶学園　日本医歯薬専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果及び改善方法

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）評価

2025年5月20日作成

10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	歯科衛生士学科においては、杉並保健所主催の「よい歯健口フェスティバル」において幼児・低学年の児童を対象として行う保健指導を行った。視能訓練士学科は小学校眼科検診や就学前検診で早期弱視の発見のための支援活動を実施した。また、保育園に通う未就学児の就学後の視力検査のための練習を行い、眼の大切さや検査の重要性を伝える活動を行った。 海外研修においては2024年度まで実施できず、2025年度にむけて計画中である。	杉並区と連携し実施している、歯科衛生士学科のよい歯健口フェスティバル、視能訓練士学科の小学校・保育園を対象とした眼科検診を通じ、学生も現場から職業観に触れ、学習意欲の向上につながっている。	2.8	・資格等を学びながらそれを活かせる地域貢献、沢山あった方が良いと思います。 ・感染症等の影響が大きいかと思いますが、今後に期待しております。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	今後も地域と共に発展していく学校として、地域に根ざした学校づくりを目指し、社会貢献活動に積極的に参画することを継続させていきたいと考えている。 また、地域の催事を通して、社会貢献に携わっていきたい。	学校関係者評価委員との連携を図り、地域ボランティアの収集を行なっていく。		